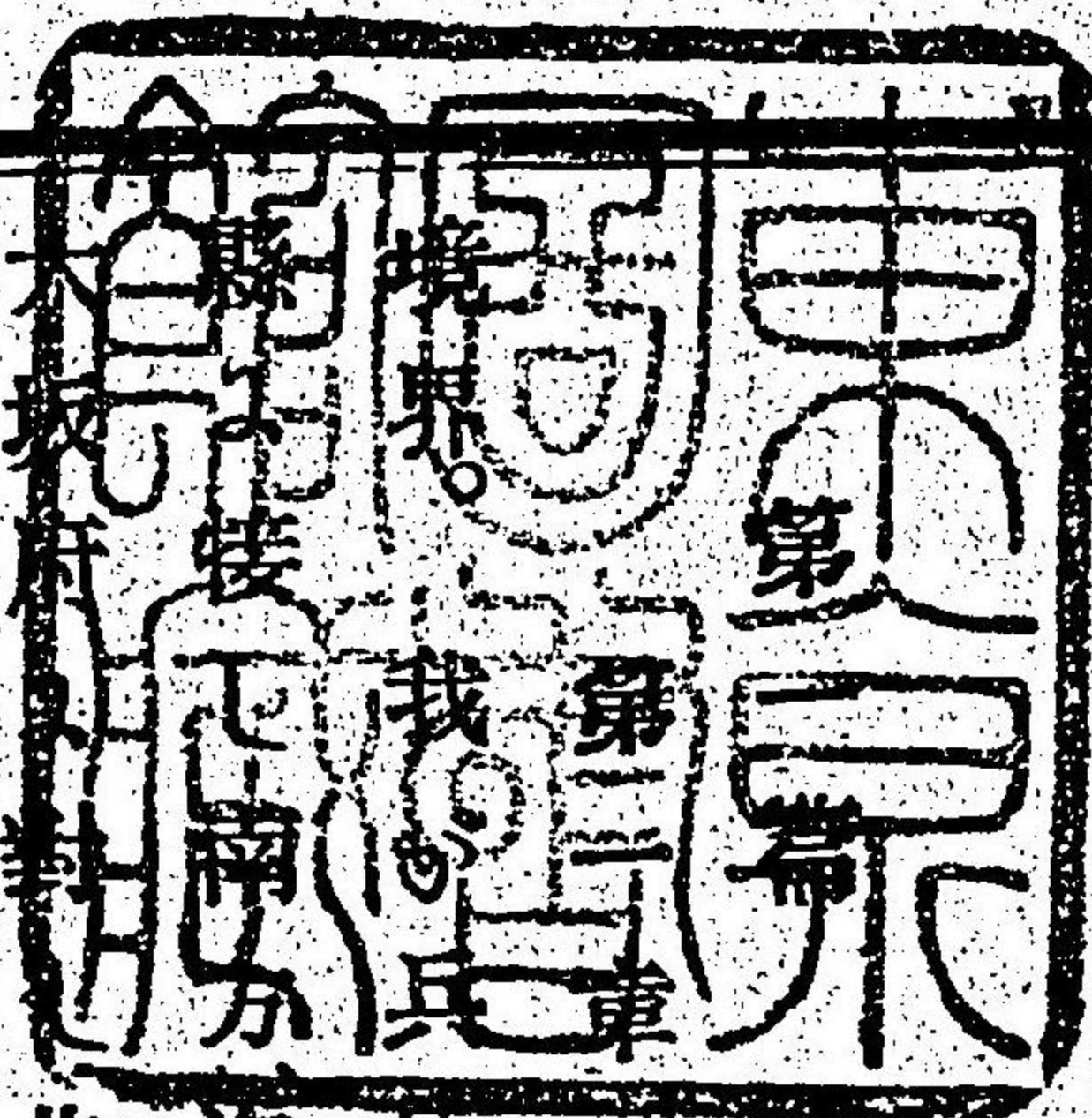


特44
489

兵庫縣管内地理全



総論

發端

編者 岩崎



境界。我が兵庫縣を東、大坂府西、岡山縣及び鳥取縣と接し、南方、海をへだて、香川縣和歌山縣及び大坂府と對し、北方、日本海と臨み、東北の一隅、京師府にまじはる而して一孤島の播磨灘と茅渚海との間、横はるあり、廣袤、東西廣きところ三十三里、南北五十一里

あり
戸口。戸數凡う三十一万四千、人口凡う百五十六万あり

區劃。縣内を大別して五ヶ國とし更に之を分ちて二市三十三郡となす今其名を次ゝしるすべし

播磨國 一市十六郡 (山陽道に屬す)

姫路市、赤穂、揖西、揖東、飾西、飾東、印南、加古、明石

美嚢、加東、加西、多可、神東、神西、宍粟、佐用、

攝津國 一市五郡 (畿内に屬す)

神戸市、八部、菟原、武庫、河邊、有馬、
丹波國 二郡 (山陰道に屬す)

多組、氷上、

但馬國 八郡 (山陰道に屬す)

朝來、出石、氣多、城崎、美含、二方、七味、養父、

淡路國 二郡 (南海道に屬す)

津名、三原、

第二章 地勢

山脈。山脈を所謂中國山系として畿内より來り本縣の中央を東西に亘りて山陰山陽兩道に分ち所々支脈を生ず故を以て平野少なく山岳多し河流。水流は中國山系より發源し其南に流る。ものは内海に入り其北に流る。ものは日本海に

注ぐ
平地。縣内山多きを以て平野の廣大なるものな
し其稍々開けたるは播磨南部、攝津東南部、但馬東
南部、北部、及び淡路南部とす
海岸。日本海に向へる海岸は岬灣少なければども
内海に向ふところを岬灣多くして航海も便利な
り

第三章 都邑

都邑。都邑の大なるもの播磨を姫路(人口二萬
六千)あり明石(人口二萬)これより次ぐ攝津は神戸
(人口十三萬七千)あり縣下第一の都會として兵庫

縣廳のあるところなり西の宮(人口一萬三千)も亦
一方の都會なり丹波の都邑を篠山(人口七千)とし
て但馬を豊岡出石(人口各五千乃至七千)淡路を洲
本由良を稍繁盛なる都會とす

第四章 氣候

氣候。南方内海へのぞめる播磨攝津淡路は温和
なれども北方丹波但馬は寒冷にして夏秋の際雲
霧深く但馬の如きを冬季積雪最も深し

第五章 生業

生業。は農業を第一とし商業これより次ぎ工業又
之れに次ぐ沿岸の住民を漁業或は鹽業に従事し

山間の住民も蠶業或は樵業を營む

第六章 産物

農産。米麥を第一とし其名市場も高し其他茶生絲及び牛を産す、礦物も金銀蠟石類御影石等を出す、水産物は章魚鮭鱒鯛等名あり、製造物の主なるものは赤穂鹽、龍野醬油、姫路革、明石縮、伊丹酒、有馬竹細工、豊岡柳行李等なり

第七章 交通

國道。中國道を大坂府より縣内に入り攝津の海濱に沿ひ神戸を過ぎ播磨に入り明石姫路をへて岡山縣に入り其里程凡そ三十三里あり、津山街

道を姫路より起りて西北に進み美作に達す其里程凡そ十四里あり、高知街道を淡路の岩屋より福良に至る里程凡そ十四里あり

縣道。姫路より正北に向ひ生野をへて豊岡に達するものを但馬街道と云ふ其里程凡そ二十五里あり、神戸より丹波を過ぎて豊岡に達するものを但馬路と云ふ其里程凡そ三十六里あり、其他京都街道天田街道京街道等の道路あり
水路。神戸を内海航路の要所と位し汽船日々大坂より此港に下りて一は淡路の諸港に航し一は播磨の諸港に達するを以て物貨の運送便利なれ

ども日本海に面する地は港灣少なきと冬季波浪高きを以て稍々其便を缺く

鐵道。山陽鐵道は神戸より發して岡山縣に入り坂神鐵道は大坂より神戸を通す又近時師磨と生野の間に播但鐵道を布設せんとす

電信。電信を中國道よりひて架設し各地に電信局を置く、一線姫路より豊岡に達するものあり、又舞子濱と淡路の岩屋との間に海底電線す

第八章 政治

縣治。縣を治むる地方長官を知事と云ふ各郡市に郡市長を置き又各町村に町村長を置きて管内

を治む

議會。縣に縣會あり郡市町村にも議會ありて各法律の定むるところよりて事を議す

第九章 教育及宗教

學校。學校の種類を神戸市に尋常師範學校商業學校を置き姫路市に尋常中學校を設く、其他各郡市に數箇の高等小學校を置き尋常小學校は至る所に設く

學制。兒童六歳に至らば尋常小學校に入りて四年間必ず脩學すべきは我が國の制度なれとも學齡兒童未だ悉く脩學するに至らず

宗教。宗教も佛教を信するもの多く神道を奉ずるものこれより次く、又都會の地より小數の耶蘇教信者あり

第十章 兵庫縣の沿革

明治元年藩を廢して各藩より縣を置く、明治四年各縣を合して兵庫縣、飾磨縣、豐岡縣、名東縣の四つとなす、明治九年更に改めて兵庫縣となし管内を一統して今日至る

第二篇 各國地理

播磨十六郡地理

第一章 發端

境界。播磨國を山陽道の東端よりあり東は攝津西は美作備前より連り南方は播磨灘に臨み北は但馬因幡より接し東北の一隅丹波より界す
廣袤。東西廣きところ二十三里、南北十七里あり

戸口。戸數凡より十四万、人口凡より七十二萬あり

第二章 地勢

地勢。東北西の三方は山を負ひ其北方山陰道と界するところは即ち中國山脉として高山大岳相連る故より地勢北より赴くより隨ひて漸く高し、地味肥沃にして耕作に適す

山岳。赤穂郡の船坂山を兒島高德の義を擧げんとせし所にして白旗山は赤松圓心の城趾なり。掛西郡の城山を赤松滿祐の將軍足利義教を弑して據りし所なり、飾西郡に書寫山明神山雪彦山あり書寫山上に巨剎あり圓教寺と云ふ其名著は、飾東郡の廣峰山に廣峰神社あり山下白國村の梅林は花時の景愛すべし増位山上に隨願寺あり、印南郡に高御位山中道山あり、加西郡の法華山其北に連る山腹に一乗寺あり、其山脉東より走りて明石郡の神出山となる、加東郡に五峰山御嶽山三草山あり御嶽山を攝津

丹波の界を分つ山中に清水寺あり法華山の一乗寺と共に勅創なり、古剎なり五峰山は光明寺あり三草山を源平二氏の古戰場なり、多可郡の三國山は播磨攝津丹波の三國に跨る、神東郡の笠形山は國中第一の高山にして其形の似たるを以て播磨富士の名あり、神西郡の七種山中に七種の瀧あり高さ二十一丈余又峰山大田に大田の瀧あり高さ四十四丈國中第一と稱す、宍粟郡に黒尾山氷山あり
 河流。地勢北部高さによりて河を大概北方より南流して内海に入る、千種川は宍粟郡より發源

し赤穂郡に至り海より入る此川舟楫の便あり、揖保川を氷山より發源し揖西郡より入り海より注ぐ、夢前川を飾西郡よりある小流なり、市川を生野銀山より發源し飾東郡に入り二つに分れ姫路を夾みて海より注ぐ、加古川は丹波の大蜘蛛川の下流よりして多紀郡に發源し加古印南の界を流れ二つに分れて海より入る此川舟楫の便あり、明石川は明石郡にある小流なり其河岸にある押部の庄は昔履中天皇の御孫億計弘計二王の潜れ給ひし地なりを以て有名なり

廣野。美囊の廣野草荷野、加東の嬉野、加西の青野

飯盛野を其大なるものとす加東加西より軍馬育成所を設く此等の地方を毎歲陸軍演習の場あり

海岸。國の南方を一帶播磨灘として家島群島羅列し沿岸凡そ二十三里崎の大なるものは赤穂郡の網崎、三崎及び揖西郡の金崎とす、赤穂郡の坂越揖西郡の室津、揖東の飾磨、加古の高砂、明石の明石港何れも汽船寄港の便あり、明石と淡路と相對する海上を明石海峡と云ふ潮流急よして舟行の難所たり

第三章 都邑

都邑。加里屋は赤穂郡よりあり義士の木像を安置

せると製鹽の業盛なるを以て有名なり、龍野は
揖西郡あり醬油の名産地なり、鵜は揖東郡あり、
姫路市を國中第一の都會として豊臣秀吉
の築きたる白鷺城を五層の天主閣高く雲際を屹
立し城内に第八旅團第十聯隊衛戍を置き市街繁
盛なり、曾根松石の寶殿は印南郡にあり、加古
郡の高砂の松、尾上の鐘と共に播磨の名所なり二
見寺家町も又加古郡あり、明石は明石郡ありあ
り國中第二の都會として岩屋人丸の二神社は共
に絶勝の地なり舞子濱を明石の東、海濱あり前
は近く淡路に對し白砂青松相映し風景愛すべし、

其他美囊の三木加東の社小野多可の中村加西の
北條宍粟の山崎佐用の三日月は各一方の小都會
なり

第四章 氣候及産物

氣候。南方海岸の地を温暖なれとも北方山間の
地は稍々寒冷なり

産物。農産は米麥飾西の茶等として、礦物を印
南より龍山切石を出す、水産物を二見蠣加古の
海藤花明石鯛を出す、製造物は赤穂鹽龍野醬油
姫路革高砂染舞子焼三木刀物筭盤多可の織物等
を出す

第五章 交通

國道。備前の界より攝津の界に達する直路を中國道とす。里程凡そ二十三里過ぐるところ有年片島正條姫路御着加古川明石の七驛なり。姫路より西北に向ひ美作の界に達するものを津山街道とす。里程凡そ十四里過ぐるところ。嘴崎千本三日月佐用の四驛なり。

縣道。姫路より正北に向ひ但馬の界に達するものを但馬街道とす。里程凡そ十一里過ぐるところ。仁豐野屋形森垣等の數村なり。

鐵道。山陽鐵道國の南部を貫き東西に通じ有年

那波正條綱干姫路阿彌陀加古川土山大久保明石舞子の各所に停車場を設く

攝津五郡地理

第一章 發端

境界。攝津國は本縣の東部に位す。國を畿内に屬し大坂府と分治す。東は大坂府の豊島能勢二郡と界し西を播磨北を丹波と接し南は海と面す。廣袤。東西廣きところ九里、南北十一里あり。戸口。戸數凡そ七万一千、人口凡そ三十三万あり。

第二章 地勢

地勢。北部は一帶山脉を以て圍み内部又山多し
獨り南方海岸の地は平垣なり、地味豐沃にして
果物蔬菜も適せり
山岳。再度山、神撫山を共々八郡あり其脈西
南より走りて鐵拐鉢伏の諸山となる此地の一の谷
鴨越の古戰場あり眺望の絶佳なりと共々其名高
し、摩耶山を菟原郡あり山頂天上寺の巨刹あり
其西の砂山より布引瀑あり幽靜愛すべし、六甲
山一名武庫山を武庫郡あり山頂氷室を設く、
中山を河邊郡あり山麓より有名の巨刹あり中山
寺といふ、有馬郡より有馬山、角山あり角山は其形

の似たるを以て有馬富士と云ふ
河流。河の大なるものなく大概河底高くして所
謂天上川をなす、湊川を八郡あり水源遠か
らす兵庫より海に注ぐ此川平時は水流を見ずと
雖も堤樹鬱然として夏時の納涼も適す昔楠正成
血戦の地たるを以て有名なり、武庫川は有馬郡
より發源し諸水を集めて武庫郡に入り海に注ぐ
神崎川は河邊郡あり猪名川と合し大坂府の
界を流れて海に入る
海岸。國の南方は即ち茅渚海にして海岸甚だ長
からずと雖も風景絶佳なり、和田岬は國の西南

部に突出し燈臺を設け甚だ要害の地なり、其東
よ兵庫神戸の二港あり、兵庫の西宮河邊の尼崎
を共よ東部小船の碇泊所なり

第二章 都邑

都邑。神戸は五港の一よして兵庫縣廳のあると
ころなり慶應三年開港以來貿易益々盛よして海
岸に外人の居留地あり内外の船舶出入たえず生
田神社此地よあり昔平氏の東門を築きたるとこ
ろよして社内靜閑なり、兵庫を湊川をへだて、
神戸よ連り商船輻輳の要港なり湊川神社は楠正
成を祀る市内の大社なり、住吉を菟原郡よあり

西宮は兵庫郡よあり大國主神社あるを以て有
名なり、尼崎は河邊郡よある碇船の地よして伊
丹を醸酒を以て有名なり、須磨は八部郡の海濱
にあり昔平氏の據りしところなるを以て古跡多
し、湯山三田を有馬郡よあり湯山の温泉を著名
にして浴客常よ多し、兵庫郡よ寶塚、神戸よ諏
訪山、布引の温泉あり

第四章 氣候及産物

氣候。一般温和なり
産物。農産は果物茶植木苗及牛等よして、礦物
を御影石セメントを出す、製造物の主なるもの

伊丹酒有馬細工池田炭紙等なり

第五章 交通

國道。中國道國の海濱よりひて大坂府の界より播磨の界に達す里程凡そ十里過る所兵庫神戸御影西宮尼崎神崎とす

縣道。西宮より東北に向ひ伊丹の北を過ぎて大坂府下より出づるものを京都街道となす里程凡そ三里、神戸より正北に向ひ三田をへて丹波より出づるものを但馬路にして里程凡そ十二里あり
鐵道。坂神鐵道國中を東西に通じ神戸三の宮住吉西宮神崎より停車場を設く

丹波二郡地理

第一章 發端

境界。丹波國を本縣の東北部より位す國を山陰道に屬し京都府と分治す東を京都府の船井郡北は全しく天田郡より接し南を攝津西は但馬西南を播磨に界す

廣袤。東西廣きところ十八里。南北八里あり
戸口。戸數凡そ二萬六千、人口凡そ十一萬あり

第二章 地勢

地勢。山脉四方を圍み内地又山多く海に濱せず只河岸に稍々平地を存するのみ、地味肥瘠相ま

じはる

山岳。山の大きなものは多紀郡の御岳山西ヶ岳
金ヶ岳八尾山如意山愛宕山あり、氷上郡に不動
山五臺山石金山等あり不動山は獨鈷の瀧あり高
き五丈山中の絶景なり

河流。大蛛川は多紀郡に發源し氷上郡に入り久
下川と呼ぶ所謂加古川の上流なり、佐治川は氷
上郡より南流して久下川と合す竹田川は又氷
上よりあり北流して天田郡に入る

第三章 都邑

都邑。篠山は多紀郡よりあり舊青山氏の城邑とし

て國中の一都會なり東南に淺茅山あり明智光秀
の據りし處なり、柏原は氷上郡にあり此地の八
幡社は壯麗にして有名なり、

第四章 氣候及産物

氣候。寒冷にして冬間積雪多く夏秋の際雲霧深
し

産物。農産は煙草を第一として木綿生絲茶等之
に次ぐ、其他栗柿薪炭葛粉松茸水豆腐等を出す

第五章 交通

縣道。古市より柏原をへて但馬より入るものを但
馬路とす里程凡そ十四里、古市より市島をへて

京師府下より出づるものを天田街道となす里程凡
九里、古市より篠山をへて京都府下に出づ之
を京街道とす里程凡九六里あり
但馬八郡地理

第一章 發端

境界。但馬國を本縣の北部に位し國は山陰道に
屬す東は丹波丹後に界し西を因幡に接し南を播
磨北は日本海に面す
廣袤。東西廣きところ十八里、南北十九里あり
戸口。戸數四万二千、人口凡九二十一万あり

第二章 地勢

地勢。國の南方播磨と界するところを所謂中國
山系として其脈所々に亘り國中又平地少なし、
味肥瘠相半す

山岳。生野銀山を朝來郡にあり金銀銅鉛を産す
今御料局の管轄に屬し採掘甚だ盛なり此地を南
八郎の尊攘の説を唱へし所なるを以て有名なり
其東北に朝來山(一名粟鹿山)あり、石原山(一名妙
見山)は養父郡にあり高く雲際を聳へ良材を出す
山中に猿尾の飛瀑あり高さ三十余丈、明延銀山を
播磨の界にあり、床尾山は出石郡にあり、三開
山を城崎郡にあり其形の似たるを以て但馬富士

と云ふ、久斗山を美含郡より其脈延ひて遠く海中より突出す
河流。河を南境中國山系より發源し北流して海に入る、圓山川は國中の大川にして諸水を集め城崎郡より入り津居山港に注ぐ比川船楫の便あり矢田川を美含郡にあり養父郡より發源して海に入る、二方川を二方郡より濱坂港に注ぐ海岸。海岸凡そ十余里波浪險惡にして岬礁少からば、岬の大なるものを美含の猫崎余部崎及び二方の鬼門岬とす、港の名あるものは城崎の津居山二方の濱坂二港なり

第三章 都邑

都邑。生野は大礦場のあるところとして金銀を出すこと夥し和田山は一方の小都會なり共々朝來郡にあり、豊岡は城崎郡より國中の大都會として柳行季の製造盛なり地に小田井神社養源寺興國寺の有名なる社寺あり湯島を温泉浴場を以て顯はる、出石は出石郡にあり陶器を出す、村岡は七美郡よりある大邑として居民紙紮を以て業とす

第四章 氣候及産物

氣候。一般寒冷にして冬季降雪最も深し

産物。農産は蠶絲麻及び良牛を出す、礦物を金銀銅鉛及び砥石を産す、製造物は豊岡柳行李出石焼村岡紙絞等あり、水産は鮭鱒鱈等あり、

第五章 交通

線道。生野より和田山をへて豊岡に達するものは豊岡街道にして里程凡そ十四里、丹波より來り和田山に於て豊岡街道に合するものを即ち但馬路なり、其他豊岡より起りて因幡に通ずる路あり

淡路二郡地理

第一章 發端

境界。淡路國は南海の咽喉にあたる島國にして國を南海道に屬す東は茅渚海西は播磨灘を受け南を紀の海に臨めり
廣袤。東西廣きところ七里、南北十七里あり
戸口。戸數凡そ三万五千、人口凡そ十八万あり

第二章 地勢

地勢。北部は山多れとも南方は平野開けたり、地味一般肥沃なり、
山岳。國中高山なし其稍々大なるものを津名郡の常隆寺山柏原山及び三原郡の踰鶴羽山先山とす

河流。國小なれば大河なし只津名郡の洲本川三原郡の三原川を稍々大なりとするのみ海岸。淡路は四周海を繞らすを以て海岸長し、岬の大なるものを津名郡の松尾崎生石崎三原郡の潮岬鳴門崎とす鳴門を波浪の奇状を以て名あり生石崎は組伊の友島と相對し國防の要所たるを以て砲臺を設く三原の南海上に沼島あり居民擧て漁業を營む、港の名あるものを津名の岩屋洲本由良三原の福良津井港とす

第三章 都邑

都邑。洲本は津名郡の一都會として由良岩屋を

一方の小都會なり、福良は三原郡の良港として其東隣に天王森あり淳仁天皇の御陵地なり

第四章 氣候及産物

氣候。本縣の最南に位するを以て一層温暖なり産物。農産は砂糖茶藍烟草及鳴門密柑を出す、製造物を綿絲紙仁平燒等を産し、水産物は乾鰯煎海鼠其他魚具の利少からず

第五章 交通

國道。岩屋より福良に達するものを高知街道となす里程凡そ十四里あり

兵庫縣管内地理附録				著名港輸出物品表					
國名	播磨	磨	攝津	丹波	但馬	淡路	國	名港	輸出品物
地味	地質豊沃	穀菜に適す	土質肥沃 蔬菜果樹に適す	土質中等 綿烟草に適す	土質中等 普通の作物に適す	土質最良 作物豊熟	大	神戸港	米、茶、砂糖、反物、生絲、銅、石炭油、マツチ、雑貨、磁器、陶器、樟腦、屑布
生業	農商工業	漁業	農商工業	農商工業	農商工業	農商工業		兵庫港	米、大豆、砂糖、反物、薪炭、清酒、肥料
運輸ノ便否	南部道路開け、鐵道通し、船舶の便あり、北部不便		南部甚だ便利なれども、北部山間の不便	鐵道船舶の便を欠け、中等	道路崎嶇、輸不便	陸運稍不便		西宮港	清酒
								尼崎港	米、綿、醬油、生魚
									米、清酒、紙、雜品

兵庫縣管内地理附録							
兵庫	縣	廳	及	各	郡	役	所
兵庫縣廳	飾西郡	加古郡	加東郡	佐用郡	神戸市	有馬郡	永上郡
神戸市北長狹通四丁目	手野	寺家	社	佐用	神戸	三田	柏原
朝來郡	津名郡	赤穂郡	飾東郡	明石郡	加西郡	八郡	多紀郡
和田山	洲本	加屋	姫路	明石	北條	奥平野	篠山
出石郡	三原郡	揖西郡	姫路市	美農郡	神東郡	菟原郡	城崎郡
出石	市村	龍野	姫路	三木	西田原	西宮	豐岡
揖東郡	印南郡	多可郡	宍粟郡	河邊郡	七美郡		
鰯	魚の橋	中村	山崎	伊丹	村岡		

明治二十六年九月一日印刷

定價金六錢

明治二十六年九月九日發行

編纂者

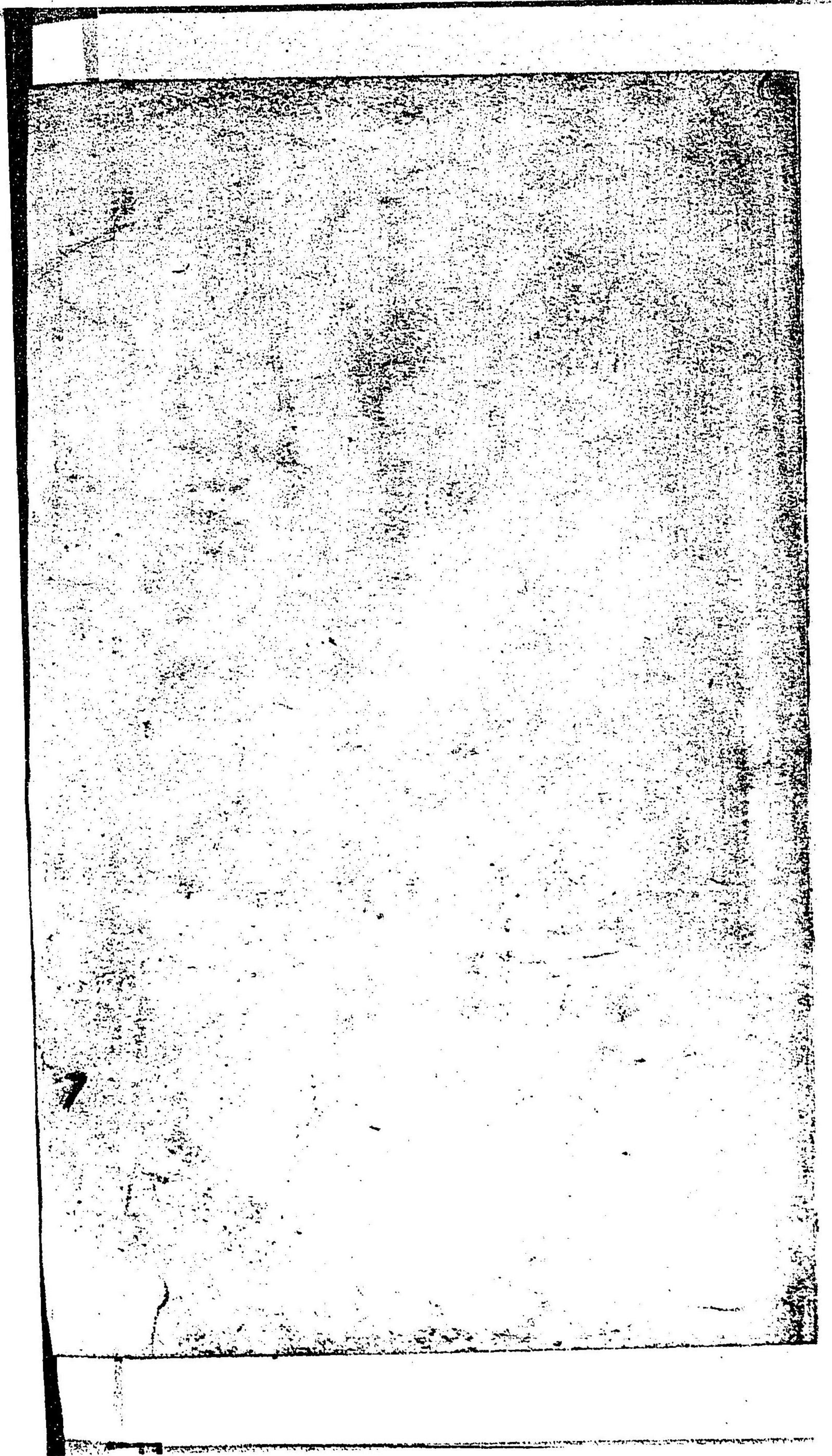
岩崎元一

兵庫縣赤穂郡赤穂町之内
加里屋町壹番屋敷寄留

發行人兼

豐岡與一

兵庫縣赤穂郡赤穂町之内
加里屋町百七十七番屋敷



特44
489

025617-000-2

特44-489

兵庫県管内地理

岩崎 元一/編

M26

ADC-3113

